

第4回 海岸勉強会メモ

日時:平成20年3月19日(水)

19:00~21:00

会場:住吉公民館

(1) 砂の移動に関して

宮崎海岸の海中部における砂の移動や構造物がある場合の砂のつき方等について、行政から説明を行った。

説明の後、参加者による質疑応答を行った。

- ◇ 一般的な海岸では静穏時は沖側に出たバーが再び陸側に戻る。
- ◇ 調査期間が短いため一概には言えないが、宮崎海岸において水深10m以下の所では砂の変化はなく、以上の所で砂が動いている。
- ◇ 宮崎港の突堤は昭和57年にできたもの。それ以前の測量データはない。
- ◇ 石崎川が再度河口閉塞する可能性はある。昭和60年~平成18年の間に空撮が行われているかどうかについては今後調査する。
- ◇ スライド5ページ目でもって、砂浜が陸域および水深の深い所で減っているかどうかは、縮尺の関係から判断しにくい。今後複数のデータ(3データくらい)で比較したい。
- ◇ スライド6ページ目に関して、砂粒の細かい所は勾配が緩やかで、粒が粗いと急勾配になる。地形にもよるが、粒の小さい方がバーはできやすく、九十九里は多段バーがある。
- ◇ スライド6ページ目から、石崎浜と富田浜は同じグループに分類される。
- ◇ 海岸への土砂供給量は十分あり、破波帯が失われたのはコンクリート構造物が問題という意見に関して、データでもって議論すべき。議論する場合は、土砂供給量に関するデータをもっと集めるべき。(吉武先生)
- ◇ 潜堤の場合も離岸堤と同じ砂の堆積の仕方。
- ◇ スライド16ページ目について、前浜は陸側、後浜は陸側である。地形・地質が要因となって、供給土砂の粒径が変わる。
- ◇ スライド14ページ目に関して、波浪場の変化で侵食が起きることは宮崎港を作る時点でわからなかったかという質問があったが、侵食がわかったのは大規模な港湾施設が出来てからのこと。
- ◇ 侵食の恐れがある場所には県による離岸堤を置いている。
- ◇ 南向きか北向きのどちらの砂の移動が多いのかは、前提によって異なる可能性がある。昔の論文の前提と今回の説明の前提をセットで調べてから議論すべき。(吉武先生)
- ◇ 気象データも必要とのことなので、今後調査する。
- ◇ 宇田先生の論文によると海砂採取が海岸侵食の要因になるとのことだが、後でその論文を確認する。
- ◇ 浚渫のデータ(土砂の行方を含む)を出してほしいとのことなので今後調査する。

(2) その他

- ・ 第5回勉強会は、平成20年4月23日（水） 住吉公民館 19:00～
専門家による生態系の説明を予定（対象については未定・・・ウミガメ、コアジサシなど）。
- ・ 今日積み残した話は5月に行う予定。
- ・ 今後の進行は、（宮崎河川国道事務所の）調査1課から海岸課へ引き継ぐ。ただし、次回は調査1課も進行に関わる。